

【様式】

平成28年度 学校マネジメントシート

学校名 ( 三重県立稲生高等学校 )

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		知・徳・体の調和がとれた『社会に役立つ人材』を育成する学校
(2)	育みたい 児童生徒像	<p>○自分自身を見つめ直し、新たな能力、適性を発見する。そして、自らの資質に磨きをかけてために、何事にも精一杯挑戦し、成長する生徒。</p> <p>○基本的な生活習慣を身につけ、社会のルールやマナーを守り、地域から信頼される生徒。</p> <p>○部活動や生徒会活動、学校行事などに積極的に参加し、人と関わる機会を多く持つことを楽しみ、コミュニケーション能力の質が高い生徒。</p>
	ありたい 教職員像	<p>○目指す学校像の実現のために、一人ひとりの生徒の適性、能力に応じた学習指導や生徒指導に情熱を持って粘り強く指導できる教職員。</p> <p>○風通しの良い学校風土と、教職員相互の対話により、学校や生徒の課題を共有し、一致団結して課題解決を図ることができる教職員。</p> <p>○自らの教育力の向上のために、ベンチマーキングや研修会等に参加し、教育活動により意欲的に取り組むことができる教職員。</p>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p>&lt;生徒&gt; 安心で快適な学習環境の中で、基礎学力の定着と希望進路の実現。学校行事や部活動の充実。</p> <p>&lt;保護者&gt; わかりやすい授業による学力の向上と希望進路の実現。自己教育力と規範意識の醸成。部活動の活性化。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	<p>&lt;保護者&gt; 生徒や学校の現状の適切な情報提供。</p> <p>&lt;中学校&gt; 卒業生や学校の現状の情報提供。</p> <p>&lt;地域住民&gt; 開かれた学校。地域活動への参加と協力。地域に貢献できる人材の育成。</p>	<p>&lt;保護者&gt; 本校教育活動への理解と参画。親と子のコミュニケーション。</p> <p>&lt;中学校&gt; 効果的な指導のための情報共有と緊密な連携。</p> <p>&lt;地域住民&gt; 本校教育活動への理解と協力（清掃活動、部活動）。</p>	
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の挨拶やマナーは、以前と比較して良くなっており、地域から見ても落ち着いてきたのがわかる。</li> <li>・政治的教養を育成する取組をもっと進めるべきである。</li> <li>・学校経営の取組指標とともに適切な成果目標を示し、継続的に検証していく必要がある。</li> <li>・生徒と地域社会の交流を通して、もっと社会性の成長につながるよう取り組む必要がある。</li> </ul>	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活に自信や目的意識が持てない生徒も見受けられることから、一人ひとりの自己肯定感を育み、学習意欲を高め、基礎学力の向上を図るような授業改善等を行うことが必要である。</li> <li>・教育活動すべてにおいて、基本的な生活習慣や規範意識の醸成を図り、人権を尊重する心を育む必要がある。</li> </ul>	
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の家庭環境や特性に応じた、学習指導や生徒指導をよりきめ細やかに行うために、組織体制や教職員の指導力向上に計画的、継続的に取り組む必要がある。</li> <li>・学校の現状や生徒の近況を、絶えず保護者や地域に情報発信することで、情報共有を図り、理解・協力・支援を受けるよう取り組む必要がある。</li> </ul>	

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が3つの学科・コースに応じた学習内容を十分に理解し、学力の向上や資格取得を目指すことで、学習意欲、学習習慣が高まるような取組を進める。</li> <li>キャリア教育をはじめとした進路指導の充実により、希望進路の実現と定着を図る。</li> <li>正しい倫理観や道徳観を身につけ、他者を思いやり、人権を尊重する意欲や態度を育成するとともに、社会人としての政治的教養の育成に取り組む。</li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の特色化を図るために、一人ひとりの生徒の能力・適性に応じた教育課程の見直しや公開授業や授業研究を行う等の授業改善を進める。</li> <li>地域社会や保護者のニーズに答えるために、地域に貢献できる取組や教育活動の改善を進める。</li> <li>教職員がより意欲的に教育活動に専念できるよう、会議の精選、効率化を図るとともに、過重労働の削減等に取り組む。</li> </ul>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
基礎学力の定着	学習意欲につながる基礎学力トレーニングの取組 【活動指標】年間20回以上 【成果指標】漢字検定合格率60%以上 学習習慣の定着	未達成(年間19回) 未達成	◎
資格取得の促進	就職、進学に対応できる、情報コース生徒の商業・情報関係資格取得(情報処理、ビジネス文書実務、珠算・電卓検定) 【活動指標】各種検定合格率アップ 【成果指標】資格活用による進路実現	情報処理検定、珠算・電卓実務検定、ビジネス文書実務検定において合格率アップ	
体育科の活性化	体育を通じた人づくりを進めるため、市内小学生を対象とした体育科生徒による指導実習 【活動指標】小学校訪問3校以上 【成果指標】小学生及び体育科生徒の満足度80%以上	3校(のべ5回) 85%	
キャリア教育の充実と進路実現	(1) 2年生におけるインターンシップの実施 【活動指標】参加生徒の割合30% 【成果指標】参加生徒の満足度80% (2) 進路ガイダンス、個別面談の実施 【活動指標】年間3回以上 【成果指標】希望進路実現100%	15% 90% 各学年3回 100%	※
基本的な生活習慣や規範意識の醸成	全校集会、学年集会での訓話や全教職員による指導の徹底 【活動指標】各学期2回の訓話、月1回頭髪服装指導 【成果指標】学校遅刻、授業遅刻の10%減少 指導件数の10%減少	各学期2回、各月1回 学校遅刻25%減、授業遅刻30%減、指導件数20%減	※

政治的教養の育成	講話、模擬投票の実施やLHR等での適切な指導 【活動指標】3年生 年間2回、1,2年生 年間1回 【成果指標】政治の仕組み理解と選挙参加の促進	3年生2回、1,2年生1回	
人権意識の育成	人権を尊重する意識の向上と道徳観の育成 【活動指標】人権デーの実施、総合的な学習の時間の活用年間3回以上 【成果指標】人権問題やいじめ事案の発生0件	3回  未達成	
部活動の活性化	運動部、文化部の活動の奨励 【成果指標】県内大会入賞者数増加、全国・東海大会出場者増加、県総体総合20位以内	・入賞者数、出場者数ともに増加 ・県総体総合男子22位、女子21位	※

改善課題

三重大学生の協力による基礎学力トレーニングの成果は上がっているが、学習に苦手意識を持つ生徒に対する手立てや指導方法をさらに工夫することと、力のある生徒の学力をさらに伸ばすような取組を進める必要がある。

また、基本的生活習慣を身につけた生徒は増えていると感じるが、まだまだ自己有用感や自己肯定感が乏しいため、授業、総合的な学習の時間、学校行事、部活動などを活用して、自分や他者を大切に作る心の教育を進める必要がある。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」:定期的に進捗を管理する取組 「◎」:最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学校の新たな特色化	教育課程の見直しを図るため、校内検討委員会を設置し、検討 【活動指標】関係機関・団体との連携調整 【成果指標】平成29年度入学生より見直し	・県教育委員会等と調整し、新教育課程作成	※
授業力の向上	授業公開や研究授業の実施による授業改善 【活動指標】授業公開週間年1回、教員による授業見学年2回 【成果指標】授業満足度80%以上	・授業公開1回、授業見学複数回 ・授業満足度93%	◎
情報発信による地域、保護者との連携促進	学校ホームページやフェイスブック、きずなネットの活用による情報発信 【活動指標】随時、迅速に発信 【成果指標】地域住民や保護者の学校理解度が高まる	年間83回発信	※

教職員のチームワークの向上	<p>会議の精選など校内組織や制度の改革改善や過重労働の削減</p> <p>【活動指標】オフサイトミーティングの実施、教職員との面談年間3回以上</p> <p>【成果指標】教職員のやりがい感や満足が高まる</p>	面談3回実施	
---------------	--	--------	--

### 改善課題

教育相談、アンガーマネジメント、LGBT 等に関する職員研修の実施により、職員の理解や意識向上は深まった。今後も一人ひとりの生徒に応じた適切な指導ができるような取組を進め、教職員の資質向上を図る必要がある。

資料の事前配付などにより、会議の効率化はできているが、会議そのものの開催が増え、職員の多忙化につながっている恐れがあり、会議の精選化をより進める必要がある。

### 5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<p>地域の活動に参加してくれた生徒は生き生きとしていた。これまでの活動を発展させることで、さらに生徒の自主性も引き出せる。</p> <p>「命の大切さを育む教育」の取組が生徒だけでなく教員も学ぶことで生徒対応にもプラス面が出てきている。</p> <p>学校の情報が地域や関係者評価委員にまだまだ伝わっていないと感じる。</p>
---------------------	--

### 6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<p>自分に自信が持てるような、また意欲がわいてくるような学力の付けさせ方をより工夫改善する。また、引き続き、基本的な生活習慣を身につけさせる指導や自分や他者の命を大切に作る心を育てる教育を丁寧に進める。</p> <p>今年度の入学者選抜の志願者数が募集定員に満たなかった学科もあることから、その原因を探るとともに、学校の魅力化を図るために希望進路の実現、部活動の活性化等をさらに進める。</p>
学校運営についての改善策	<p>学校の魅力を PR するために各学科やコースの特色を生かした取組の広報活動を工夫改善する。</p> <p>教職員の資質向上のためのベンチマーキングや研修を受けさせる機会を確保する。</p> <p>教職員のやりがい感、満足度を高めるために、国や県の方針も踏まえて総勤務時間の縮減の取組を改善する。</p>